

# ブックプレイス ムゲンダイ

~地域の図書館~



小規模型図書館の設計

用途 町立図書館、町立公園

設定 人口約3万人の町の公立図書館

敷地周辺は住宅地

蔵書数20万冊程度

延べ床面積 4539 m<sup>2</sup>

敷地面積 16553 m<sup>2</sup>

建築面積 2952 m<sup>2</sup>

駐車場台数 市民用87台／職員用21台



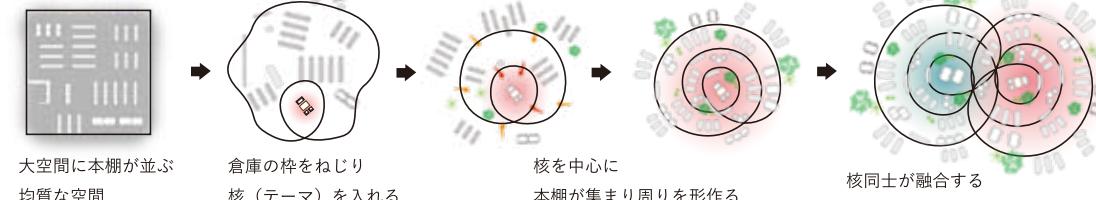
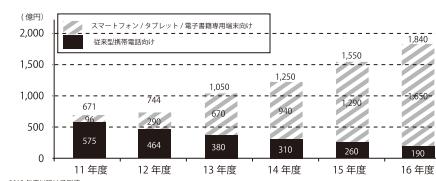
## 設計概要

小規模図書館（人口約3万人の公立図書館で蔵書数20万冊程度）の図書館の設計です。

書籍の電子化が進む昨今、端末があれば情報を手に入れるようになり、自宅のパソコンから24時間利用できる電子図書館の登場から、検索に手間のかかる図書館へは行かない人が増えると言われています。図書館の「本の倉庫」としての役割は薄れつつあり、逆に入々がのびのびと活動できる場所として魅力を持った図書館は、特に住民への図書サービスへ重点を置いている小規模図書館でより求められていくでしょう。

「知る」「楽しむ」「遊ぶ」「学ぶ」と本を味わうためのツールとして魅力のある紙の本を中心とし、現在使用されている日本図書分類法による図書の配置ではなく、新たに「住まい」「学び」「交流」の3つのテーマを核として日用視点で活用してもらえる図書館の空間をデザインします。

## 電子書籍增加の予測



学

(核同士をつなげる2F)

学

仕事や世間にに関する知識  
外向きの知識

交

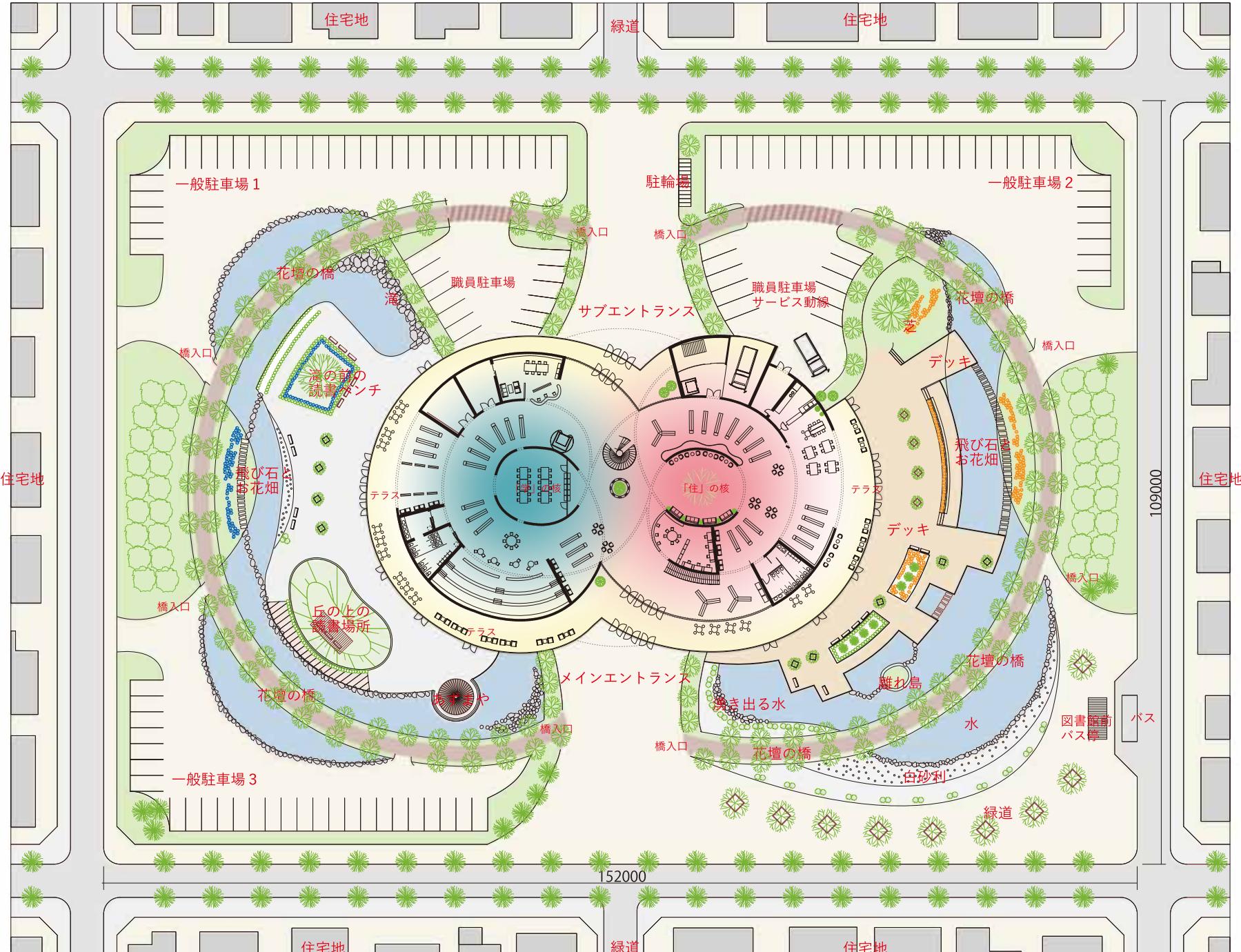
住

住

楽しく過ごすための知識  
趣味や音楽、芸術、歴史等

仕事や家庭に関する知識  
内向きの知識

建物内の「核」から広がる庭には、外で読書を楽しむ仕掛けを設けている。



NonScale

0 10 20 30 40 50

配置図



字の核側の庭

2F

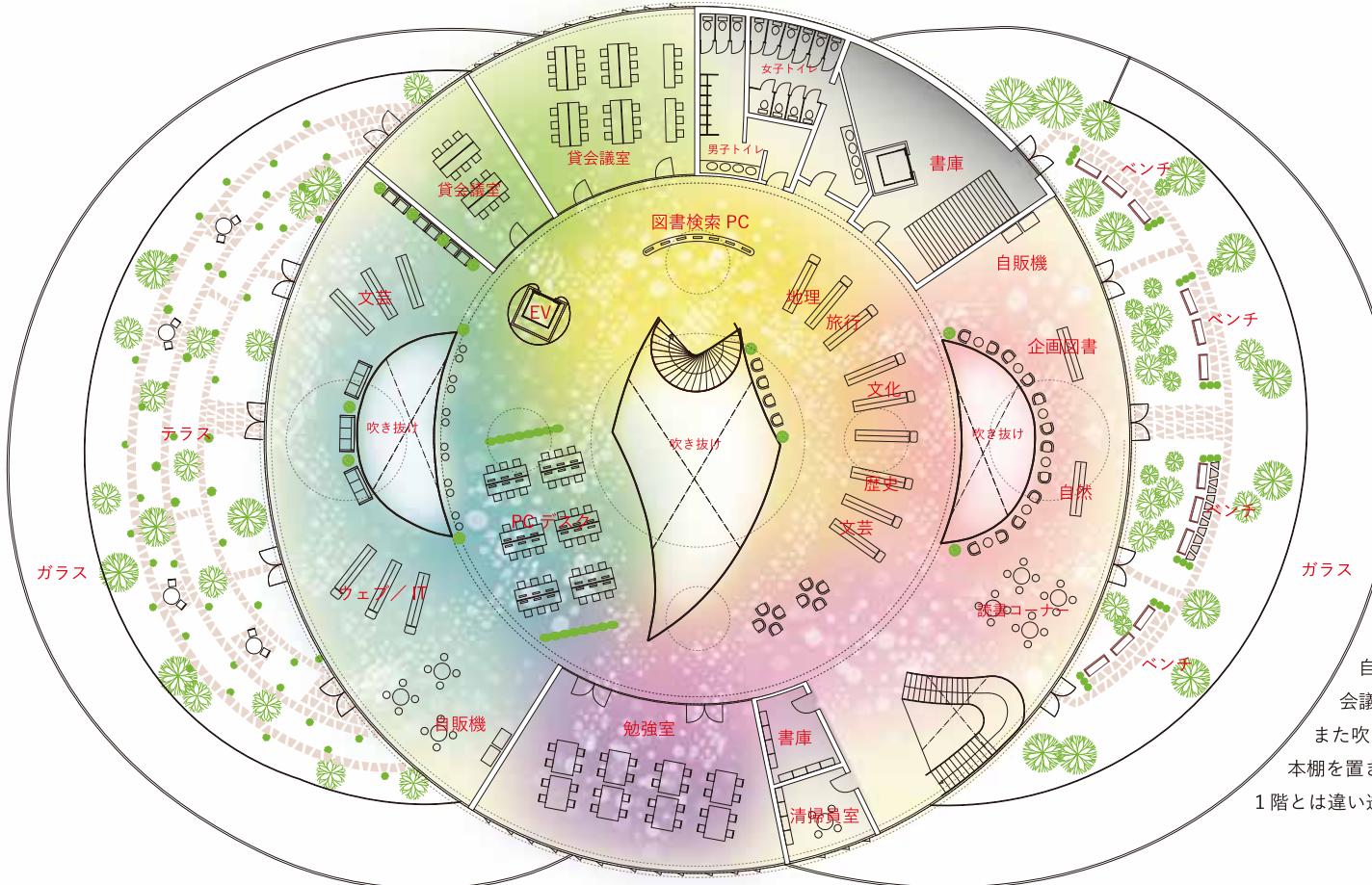
Nonscale

0m 10m 20m

団体で活動できるスペースを充実させた2階は、1階の「知」を「考」→「動」へ移すためのツールや場所が備わっている。



建物の横の長さ 74560m 縦 46500m



人は、他の人の活動風景をながめる事で  
自分も感化されることがある。  
会議室はガラス張りで中が見えるように、  
また吹き抜けで出来た特徴的なフロアの形に沿って  
本棚を置き壁を少なくする事で  
1階とは違い透明感のある空間を作っている。



左右の三日月型の吹き抜けは1階の各核の部分である  
吹き抜けから核の特色が湧き出て2階へめぐるイメージで  
建物の縦方向の奥行きと繋がりを作った。



2階の全体図



貸会議室



読書テラス



PC テスク



読書テラス



吹き抜け部分

1F

Nonscale

0m 10m 20m

∞の形の1階。真ん中から入り核を中心にテーマの図書が集まり本を通した創造性のふくらみを建物で表現した。



建物の横の長さ 74560m 縦 46500m

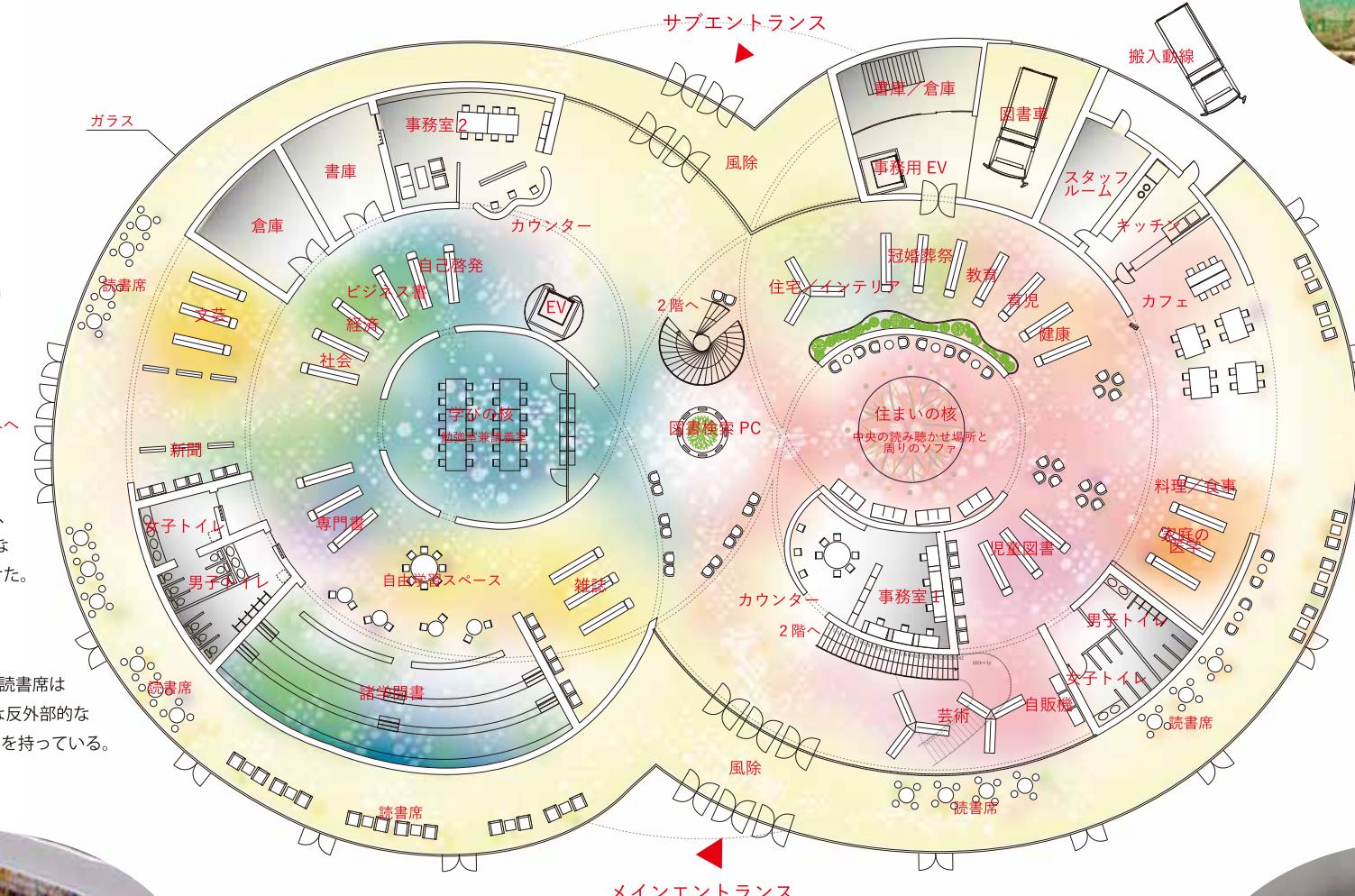


複雑な形の構成のため、視界が開けるよう、見通せるような開口を多く設けた。

建物の周りに設けたガラス張りの読書席は外の空間と建物が繋がるような反外部的な空間としての役割を持っている。



本を自由に閲覧でき、建物内を自由に持ち歩ける。  
(読み終えたら元の場所へ返却)  
建物内側に設けた核のスペースから外への広がりや空間の一体感を出すため  
本棚は放射状に並べている。



外へ

本を読みながら楽しめるカフェは住まいの核の近くに設け、利用者がほっと一息できたり、おしゃべりできる場所。

